

危険があるのではなからうか。すなわち、機械や計算機を駆使しているつもり自分自身が、いつのまにか機械・計算機の助けなしでは生きていけない生物に変わりつつあるのでは、ないだろうか。そして、それにすら気づかず、やがて人間は考える必要がなくなってしまう、いや、もはや、考えることのできなくなってしまう時が来るのではあるまいか。

そして、「人間は考えることのない、ただの莖である」となるのか!!

## NARCへの弔辞

法文学部・心理 木場 深志

どういうわけか、原稿をたのまれてしまった。これというのも広報などというものがあるためであり、もとはと言えば電子計算機があるからだ、などと恨んでもみたが、結局は、たとえばものはずみであろうとも、引き受けてしまっただけではどうにもならぬという結論におちついた。締切りがせまると能率が上がる。何となれば、夏休み中かかって書けなかったこの原稿を、私はいま数時間で書きあげようとしているからだ。産業心理学に能率研究というのがあるが、くだらぬことを研究していないで締切りをどんどん作った方がいいのではないかと思う。締切りの威力はポバイのホウレン草どころではない。ポバイで古ければ仮面ライダーのタイプ一どころではない。

原稿依頼にいられた編集者氏は理系の方で、文科の人間が計算機をどのように使うのかに興味を持っておられた様子であった。が、どう説明してよいのか実は困った。ほとんどがデータの統計処理なので、計算機というのはソロバンの親玉みたいなものだという程度にしか、私は考えていなかった。いろいろ使い途があって、なかなか高等なこともできるらしいけれど、まさか計算機で飯が炊けるわけではなし、誰が使ってもそれほど変わったことはないのではないかというのが、その時私の考えたことであった。今だに何と答えてよいかよくわからない。

ところで、私は最近、計算機とはしばらくごぶさたしている。さしあたって大量の計算をする必要がないというのが大きな理由だが、一つには、理学部の計算機が使えなくなったためでもあるらしい。いや、計算機が使えなくなったためというよりは、NARCが使えなくなったためという方がより適切かもしれない。NARCが機械とのコミュニケーションの手段だということは理屈ではわかるけれども、私は機械の構造など知らないし、第一さわったこともないのである。見知らぬ相手に憧れる年でもなし、考えてみるとどうやら私が当面の相手としていたのは、本来なら手段であるはずのコトバそのものだったようである。だから、理学部の機械がこわれたと聞いても何とも思わないのに、NARCが使えないと淋しいのである。

私が最初にNARCに接したのは、理学部に計算機が入ったときである。講習会があるというので聞きにいったが、まるきりチンプンカンであった。あれ程はなほだしいチンプンカンで、私は今までに体験したことがない。そんなことや、入力テープに限られていたため、順序の入れかえや訂正が不自由で、シマツ、とかチキシヨウ、とかぶつぶつ言いながらタイプに向っていた事を思い出す。

余りに整った女には魅力がない。NARCには色気とか何と云うか、味があった。機械はなれた雰囲気があった。FORTRANには金属的なつめたさがある。

FORTRANのメカニカルな感じにくらべて、NARCのルーズさ、能率の悪さ、そんなことも私がNARCに親近感を持つ一因であるらしい。今でもFORTRANステートメントの終りに、どうかすると“¥”などとやりたくなるのである。

しかしかにかにNARCにひかれようとも、不便であることはまちがいないのだし、第一、使えないのではどうにもならない。だから、NARCがこの大学では死語となるのは仕方がな

いとあきらめて、私はNARCを忘れることにした。テープをくずかごに入れるのは何となくはばかられて、私は自分で焼却することにした。テープに無数にあげられた穴は、そこに何もないからこそそれが穴であるのに、燃えて煙になった。

— I / Oチャネル

## 計算機使用雑感

薬学部・大学院生 小川 諭

4年生の夏にFORTRANの講習会を受け、コンピューターを使い始めて2年以上たってしまった。研究の目的は生体内にある化合物(ステロイドホルモン)の電子状態を計算しそれらのもつ生物活性との相関を解明しようと言うものであり、どうしてもコンピューターの利用が不可欠であった。講習会を受け理学部の青野教授の所へ相談しに行き、プログラムについて、また研究の方向などについて、ていねいに教えてもらい、どうやらいくどとなくERRORを出しながらも粗い近似理論に従ったプログラムを作る事ができた。だがいざステロイドを計算し始めると金沢のFACOM 230-35では演算速度もおそく、メモリーも不足し全ったく使えない、このことは前から予想していたのですが以後230-35を予備計算に使う事にし京都大学のFACOM 230-60を使う事にした。これでどうやら時間制限である20分以内で計算することができ安心したのですが、計算がこんでいる時など計算依頼から結果返却まで20日間近くかかる事もあり、長く待ちのぞんだ結果がERRORだったりすると本当にガッカリしてしまいます。何となくそんな事があったのですがこの時思った事はまず第一にすでにでき上がっている理論で計算、適応しようという時はプログラムライブラリー等を調べそれを利用するのが良いのではないかという事。自分がFORTRAN入門編、解説編を見ながら作ったプログラムは不能率きわまりなく、今見るといやになる。現在ではライブラリープログラム、その他をすこしmodifyしたり付け加えたりして計算しています。第二に京大なみの性能をもつコンピューターが金沢にあったらと言う事。ないのでしかたがないのですがせめて計算依頼から結果返却が1週間ぐらいであってほしい。第三に計算機のある工学部と薬学部の往来が時として苦痛に感じ薬学にもせめてカードパンチ機なりとあってほしいという事。願わくばこちらで計算できるようにする事を望みます。

大学院に入って、もっと近似の進んだ方法で計算するようになると京大のFACOM 230-60でもまにあわなくなった。比較的小さいステロイドでも60分以上計算にかかり大きなものになるとメモリーが不足しどうしようかと思っていたところに東大のHITAC 8800/8700システムができ、9月からは京大でもFACOM 230-75が運転し始めた。まだかなり時間的制約(東大は5分まででこの点10分ぐらいにすることを検討中とのこと、京大は15分まで)があるが今まで特殊ジョブ扱いだった計算がかなり普通に行なう事ができるようになり8800/8700システムでは大きなステロイドでも十分で計算してくれる。現在私がしている計算の限りにおいて近ごろになってようやくコンピューターの性能からくる制約が取りのぞかれたように思う。コンピューターの性能が向上し次々と新しい科学の分野を開いていくのを見るとき、学術文化都市金沢にも時代の先端に行くコンピューターシステムが早く導入される事をのぞみます。緑の多い美しい城のある金沢で超大型コンピューターの打だす数字の山を胸をわくわくさせながらのぞきこんでいるすがたを想像すると楽しい。